『はぐっとdays』は、やさしく抱きしめる（ハグ）気持ちとみんなで「はぐくむ」心を表現しており、子育てに関わる全ての人にとって素晴らしい日々になってほしいという想いが込められています。

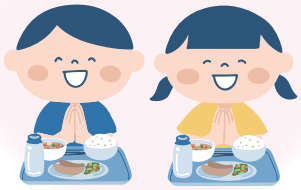
みんなで　支える　こどもの居場所

～広げよう地域の輪～

問▷記事について…広報統計課 TEL43-2248 ▷こどもの居場所について…子育て支援課 TEL43-9342

こどもの居場所って？

こどもの居場所とは、子どもたちが安心して過ごせる地域の活動場所です。家庭や学校以外の「第三の居場所」として、遊びや学び、交流の機会を提供し、子どもたちの成長を地域全体で支えています。



子ども食堂

無料または低額で食事を提供する場所です。地域コミュニティの拠点としても大切な役割を持ちます。



学習支援の場

学習環境が整っていない子どもたちに、無料または低額で学習する機会を提供する場所です。



遊びや体験の場

公園や児童館、学童保育など、子どもが安全・安心に遊びや体験活動ができる場所です。



交流の場

子育てサロンやサークル活動など、さまざまな世代や地域の人と出会える場所です。



こどもの居場所マップがあります！

問こども未来課 TEL43-2167

「今日はどこで過ごす？」「どこか面白い場所はないかな？」など、みんなの「やりたい」が実現する場所を探してみませんか。こどもの居場所マップは、子どもたちが放課後や休日を安心して楽しく過ごせる場所を掲載しています。

掲 載 数 333施設

掲載施設 子ども食堂、放課後児童クラブ、児童館、フリースペースなど

詳しくはこちら



こどもの居場所づくりをコーディネートしています

八戸市こどもの居場所づくりサポートセンターでは、子どもたちが安全で安心して過ごせる居場所を地域に広げるため、こどもの居場所づくりコーディネート事業を実施しています。地域で子どもを支える活動をつなぎ、情報提供や相談支援を行いながら、子どもが安心して過ごせる環境づくりを進めています。

問八戸市こどもの居場所づくりサポートセンター TEL47-2940

相談してみませんか？

センターでは、こどもの居場所に関する活動をしている人や、これから始めてみたいと思っている人を支えるため、次のような支援をしています。お気軽にご相談ください。

情報提供	助成金・寄付など、運営支援に関する情報を発信
ネットワークづくり	運営団体・関係機関同士の交流を促進
相談・支援	手続きや宣伝方法などの運営に関する相談受け付け、専門窓口の紹介
コーディネート	食材や場所などの提供を希望する人と運営団体との橋渡し

詳しくはこちら

活動の支援も受け付けています

「こどもの居場所」の活動以外にも、さまざまな方法でこどもの居場所を支えることができます。センターでは、次のような支援を受け付けています。



物資・場所の提供

食材や調理器具、学習道具などの物資の提供や、活動場所の提供を受け付けています。
※食品は賞味期限まで1か月以上あり、未開封のもの。生鮮食品については要相談。



お金の寄付

寄付金による支援を受け付けています。
申し込み方法や手続きの流れ、控除については、直接お問い合わせください。



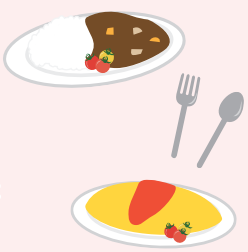
ボランティアによる支援

子ども食堂の調理や片付け、子どもたちの話し相手、学習のサポートなどをお願いしています。 ※ボランティア登録とボランティア活動保険への加入が必要です。

市内で活動している子ども食堂を紹介します

市が把握している子ども食堂の一覧を市ホームページで公開しています。開催頻度、事前予約の有無、利用料金などは運営団体により異なりますので、確認の上ご利用ください。不明な点がありましたら、各運営団体に直接お問い合わせください。
※子ども食堂は、こどもの居場所マップからも確認できます。

詳しくはこちら



こどもの居場所を支える人たち

こどもの居場所を支えている、さまざまな立場の人たちにお話を伺いました。

こどもの居場所づくりをサポート

八戸市こどもの居場所づくりサポートセンター（社会福祉協議会内）では、こどもの居場所に関する相談受け付けや情報提供、寄付活動の推進に取り組んでいます。



こどもの居場所コーディネーター
石倉功太郎（いしぐらこうたろう）さん

なぜこどもの居場所づくりのサポートが必要なの？

子どもが何かを体験したり、大人や他の子どもたちと交流したりする場所は、子どもたちが健やかに成長していく上で非常に重要な存在です。また、子どものちょっとした変化や、困り事に周囲の大人が気付き、必要な支援につなげるきっかけにもなります。

しかし、少子化や地域のつながりの希薄化で、こういった場所が減少しているため、こどもの居場所づくりを促進し、支えていく必要があります。

こどもの居場所として発展してほしい場所は？

こどもの居場所としてつくられた新しい場所だけでなく、今ある施設が子どもにとって、「誰かが自分を気にかけてくれている」と感じられる場所になっていくと、地域の子どもを見守る力が強くなると思います。

子どもたちが「ここにいてもいいんだ」と感じる大きなタイミングの一つは、人とのつながりを持ったときだと思っています。どんな施設でも子どもが自由に行けて、「自分のことを見てもらえる」と思える場所になるといいですね。

これから活動をしてみたいと思っている人へのメッセージ

活動中の団体からは、「やってみればなんとかなる」という声を聞きます。費用に関しては補助金がありますし、人手が足りない時は、当センターのボランティア派遣も活用できます。「子どもたちに居場所を提供したい」という思いが一番大切です。私たちは、その思いを形にするお手伝いができればと思っています。

寄付でサポート

農事組合法人松館夢ファームでは、生産した米の一部を、社会福祉協議会を通して市の子ども食堂へ寄付しています。



代表理事 籠田悦子（かごたえつこ）さん

子ども食堂に米を寄付しようと思ったきっかけは？

米の値段が下がってしまい、育てた米をどのように活用していこうか考え始めたのがきっかけです。

とても生産の対価に値しないような売値がつき始めたので、安売り競争の中に入るよりは、どこかで誰かのお役に立てればと思っていたときに、テレビなどで取り上げられている子ども食堂が頭に浮かびました。はじめから「子ども支援への寄付に」と限っていたわけではありません。

どうやって寄付をしたの？

どうすれば寄付できるかも分からないので、とりあえず社会福祉協議会に相談に行きました。最初は子ども食堂をいろいろ紹介してもらったのですが、現地に配達するのは負担が大きく悩んでいたところ、社会福祉協議会のほうで寄付用の米を必要なところに配ってもらえることになりました。

こどもの居場所の支援をしてみたいと思っている人へのメッセージ

私も行動に移すまでにすごく時間がかかりましたが、まずは一歩踏み出す、行動することが大切だと思います。何ができるか具体的に思いつかなかったとしても、社会福祉協議会や地域のこどもの居場所の扉を叩いてみるだけでもいいかと思います。そこで、自分ができることに出会えるかもしれません。

こども食堂を運営

地域の団体・みなみっとが運営する子ども食堂「ほたるの里食堂」は、地域住民の集いの場です。毎月第2(土)11時～14時に、白銀南公民館で食事を提供しています。

問ほたるの里食堂 TEL090-9740-3331(代表 磯谷孝子)

子ども食堂を企画したきっかけは？

共働きの子育て世帯から、学校が休みの日に昼食を用意するのがとても大変だという話を聞いたのがきっかけです。外に出る機会を楽しみにしている高齢者が地域に多くいたこともあり、子どもたちと高齢者が触れ合える子ども食堂を開設できないかと考えるようになりました。

そんな時、その思いに賛同する地域有志の皆さんから相談を受け、開設に向けて準備を進めました。(地区社会福祉協議会 会長 島浦洋二さん)


左から濵崎幸子さん、島浦洋二さん、松田ナヲさん、久保玉美さん

「ほたるの里食堂」はどんな食堂？

幅広い世代が集まる楽しい食堂です。地域の各町内会や事業所の皆さんからの寄付などを元に運営しています。白銀南地区のシニアクラブ「白楽会」と地区社会福祉協議会のメンバーが調理を担当したり、小中高生や地区の有志が手伝いに来たりと、世代を超えて多くの住民が協力して活動しています。(みなみっと副代表 濵崎幸子さん)

活動してみてどうですか？

白楽会からの参加者たちは、ほたるの里食堂で調理をし、子どもたちの笑顔を見る日を心待ちにしています。忙しくても楽しんで支度していますよ。(白楽会 会長 松田ナヲさん)

2時間で150食分の料理を作るので毎回大変ですが、それ以上にやりがいがあります。「おいしかった」「また来ます」といった、子どもや親御さんの言葉を励みにして活動しています。(みなみっと調理リーダー 久保玉美さん)

フリースペースと子ども食堂を運営

八戸あおば高等学院では、生徒と地域の交流の場(子ども食堂)や、学校以外の場所を必要としている中高生の居場所(フリースペース)を設けています。 ※要申込

申問八戸あおば高等学院 TEL22-3470

フリースペースはどんな居場所？

学校に行っていないけれどどこかに通いたい、何かしたいという子どもたちを応援する場所です。興味のあることに挑戦したり、当学院の生徒と共通の話題で盛り上がったりと楽しい時間を過ごして、勉強に対して前向きな気持ちを持てた場合には、学習面もサポートしていきます。

生徒や先生と交流するうちに学校にも通えるようになったという話を聞くと、私たちもうれしい気持ちになります。(事務局長 白山拓弥さん)



類家順子さん　白山拓弥さん

「ふれ愛・あおば食堂」はどんな食堂？

学院外の子どもたちと生徒が、一緒に料理を作ります。どのような出来栄えでも、楽しかったねと笑い合えるのが、この食堂のいいところです。子どもたちが生徒の前で苦手な野菜を食べたり、普段は消極的な生徒が自分から子どもたちをサポートしたりと、参加者全員が成長する機会にもなっています。(学院長 類家順子さん)

こどもの居場所を作りたいと思っている人へのメッセージ

皆さんこういう場を大きなものだと捉えているような気がします。困っている人のために食堂などを開くという考えも大切ですが、少し前の時代のような、近所の人たちで集まって誰かとご飯を食べる、誰かと一緒に過ごす場所があるということ自体に意味があるのだと思います。

まずは、そのような場所を作ることから始めてみてもいいかもしれませんね。(類家さん)